

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

独文学専攻

3つのポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育目標

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、これらを身につけ、先導者として全社会に貢献しうる人材の養成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、修士（文学）の学位を授与する。

資質・能力目標

- （１）ドイツ語学、ドイツ文学、ドイツ文化およびドイツ語教授法などの分野において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、適切な研究方法とそれぞれの専門において必要となる諸言語を駆使して専門的な研究を展開し、その成果を母語や外国語で発表する力。
- （２）ドイツ語学研究ならびにドイツ文学研究、あるいは関連分野の研究を内容として日本語あるいはドイツ語で修士論文を執筆して審査に合格し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域については包括的で深い専門知識を有し、その領域の研究に貢献する力。
- （３）ドイツ語を通じて異文化の歴史的、文化的、地理的特性を理解し、他者と交流を持ち、重要な問題を認識し、それを解決していくための議論や実践に資するリサーチ能力、プレゼンテーション能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた研究者、教育者、実務家として国際社会に貢献する力。
- （４）国際社会の中で人文学を学ぶことの意義を自覚し、自らの研究に基づく知見や外国語（ドイツ語）の能力および知識を生かし、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を適切な方法で行う力。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成

文学研究科独文学専攻（修士）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、特殊講義科目、特殊講義演習科目、研究科目のほか、本専攻において適当と認める授業科目から構成される教育課程を体系的に編成する。

教育課程の実施

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1) 文学研究科全体のカリキュラムの基盤として、独文学専攻において修士課程の全在学期間を通じて履修可能な、母語ならびにドイツ語による少人数演習科目を設置する。
- (2) 修士論文の執筆を可能とするため、指導教員の個別論文指導と演習授業を通じ、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度な研究能力および論述力を養う。また、修士論文中間報告会等の機会を設けて、複数の教員から指導を受ける機会を提供する。
- (3) 海外の大学院への正規留学によって取得した単位を修了要件に含めることを、単位数を限って認める。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
- (4) 海外への留学等を念頭において、より柔軟な履修を行えるように全ての科目は半期科目として開講する。
- (5) 領域横断的な研究を可能とするために、慶應義塾大学大学院の他研究科および付属研究所の設置科目、さらに文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目を修了要件として履修することを、単位数を限って認める。

学修成果の評価方法

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②休学や退学の状況などを用いる。

修士論文審査については、論文題目に加えて、主査(原則として指導教員)と2名の副査で構成される審査団の文学研究科委員会による承認、審査団による論文審査、審査団および関連教員による口頭試問を経て、最終的な審査結果を文学研究科委員会で審議、承認する。

資質・能力目標と教育内容との関係

- (1) ドイツ語学、ドイツ文学、ドイツ文化およびドイツ語教授法などの分野において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、適切な研究方法とそれぞれの専門において必要となる諸言語を駆使して専門的な研究を展開し、その成果を母語や外国語で発表する力。
→ドイツ文学研究、ドイツ語学研究、ドイツ文学演習、ドイツ語学演習などの科目を設置し、上記の分野における専門知識と研究方法を着実に身につけるとともに、研究内容を発信するための言語力を養う。
- (2) ドイツ語学研究ならびにドイツ文学研究、あるいは関連分野の研究を内容として日本語あるいはドイツ語で修士論文を執筆して審査に合格し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域については包括的で深い専門知識を有し、その領域の研究に貢献する

力。

→ドイツ文学研究、ドイツ語学研究、ドイツ文学演習、ドイツ語学演習などの科目および個別論文指導において、修士論文執筆に必要な、研究領域についての学識を深めるとともに、高度な研究能力および論述力を養う。

- (3) ドイツ語を通じて異文化の歴史的、文化的、地理的特性を理解し、他者と交流を持ち、重要な問題を認識し、それを解決していくための議論や実践に資するリサーチ能力、プレゼンテーション能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた研究者、教育者、実務家として国際社会に貢献する力。

→ドイツ文学研究、ドイツ語学研究、ドイツ文学演習、ドイツ語学演習などの科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。

- (4) 国際社会の中で人文学を学ぶことの意義を自覚し、自らの研究に基づく知見や外国語（ドイツ語）の能力および知識を生かし、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を適切な方法で行う力。

→ドイツ文学研究、ドイツ語学研究、ドイツ文学演習、ドイツ語学演習などの科目を組み合わせることで履修し、さらに他研究科および附属研究所の設置科目、文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目の履修も可能とし、広く人文科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

- (1) 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、専門とする領域全般についての基礎知識を有している。
- (2) 大学院において何をどのような方法で研究したいのかという研究計画、あるいは専門的な知識やスキルの修得をキャリアにどのように活かせるかについて具体的な計画を自ら考え、まとめることができる。
- (3) ドイツ語および他の関連する外国語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な読解力、学術的内容を的確に論じることができる基礎的な表現能力を身につけている。
- (4) 修士課程修了後の研究者、教育者、実務家としてのキャリアについて、積極的に考えている。

選抜の基本方針

このような入学者を幅広く受け入れるため、一般入試により選抜を実施する。

- (1) 一般入試

専門科目・指定言語科目（ドイツ語）・選択言語科目の三科目の試験および口頭試問による選抜であり、文学研究科にふさわしい高い学力を要求する。